

第 177 回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部会議

議事概要

日 時：令和 4 年 9 月 15 日（木）11:00～12:00

場 所：県庁 6 階 第 1・2 特別会議室

・会議の概要

<報告事項>

- ◇ 県内における新型コロナウイルス感染症の感染者数や広がり状況、医療提供体制等について、それぞれ所管する本部員から報告があった。

<議題事項>

- ◇ BA.5 対策強化地域指定の取り扱いについて議論した結果、解除とすることを決定した。
- ◇ 沖縄県対処方針の変更について議論した結果、対処方針の変更を決定した。

1 参加者

玉城 知事、池田 副知事、照屋 副知事 島袋 政策調整監、嘉数 知事公室長、
宮城 総務部長、儀間 企画部長、金城 環境部長、大城 生活企画統括監、
糸数 保健医療部長、崎原 農林水産部長、松永 商工労働部長、
宮城 文化観光スポーツ部長、島袋 土木建築部長、名渡山 会計管理者、
半嶺 教育長、我那覇 病院事業局長、松田 企業局長、
県警 諸見里 警備第二課調査官 宮里 感染対策統括監、
高山 政策参与、テレビ会議システム利用：木村 宮古保健所長、比嘉 八重山保健所長

2 報告事項

(1) 沖縄県内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について【資料 1～7】

- 総括情報部から警戒レベル判断指標等の状況について報告があった。
 - ✓ 判断指標の項目である人口 10 万人あたりの新規陽性者数は、2 週間前は 1,233 人、1 週間前は 752 人で、昨日は 398 人まで改善している。全国の都道府県別順位でも 47 都道府県中 37 位というところまで来ている。病床使用率も 2 週間前の 56%から改善し、現在 41%となっている。重症者用病床使用率についても直近の数値は 30%台前半から 20%台後半となっている。
 - ✓ 前週比は 1 を切る状況が続いており、直近 1 週間でも 0.5～0.6 で推移している。

- ✓ 新規陽性者数は、昨日で 824 名となっている。
- ✓ 入院中の患者は 2 週間前に 449 人だったが、昨日は 298 人に減少している。重症患者は一桁台で推移している。宿泊施設や自宅での療養者の合計も 8,000 人程度であり、2 週間前の 1/3 となっている。
- ✓ 県外在住新規陽性者数は、一番多い時期で 8/1 の週合計 350 人で、その後は減少している。直近では 42 名。
- ✓ 圏域別の状況については、病床使用率は本島では 47% 台。宮古八重山では 10% 台で、県全体では 41% となっている。新規陽性者 7 日間合計前週比は、各圏域 1 を下回る状況が続いている。
- ✓ 非コロナ病床利用状況について、沖縄本島では 96.1% となっており、医療ひっ迫が十分解消されているとはいえない。
- ✓ 患者受入医療機関の就業制限について、7/30 に 1,277 人だったが、直近の 9/14 には 391 人と最も多い時期の 1/3 程度に減少している。
- ✓ 沖縄県疫学・統計解析委員会の報告によると、沖縄県における新規陽性者数・実効再生産数は、沖縄本島で 0.6 台、離島では 0.7 台と減少が続いている。
- ✓ 年齢階級別推移では、10 歳未満が 16% と最多で、30 代、40 代と続いているが、すべての年代で減少している。
- ✓ 今後の見通しと対策については、新規陽性者数は着実に減ってきており、今週の新規陽性者数は、5,000-7,000 人へと減少する見込み。入院者数についても今週末までに 370-400 人に減少すると見込まれ、ひっ迫状況は改善すると期待される。
- ✓ 今後 12 月までは減少した状態が継続するものと考えられるが、地域流行は継続しているため、感染対策が不十分なままイベントが繰り返されるなどした場合、冬を待たずに再流行することも考えられる。また、ウイルスの変異によって流行が早まる可能性もある。

- ✓ ワクチン接種状況について、9/13 時点では、1回目、2回目ともに71%となっており、3回目は48.4%となっている。高齢者に限定すると3回目接種は84%となる。4回目接種については60歳以上のみの集計で49.2%が接種している。
- ✓ 4回目接種（60歳以上）：11市9月末までの接種対象者の接種実績について、70%を超える市と、50%の市があればつきが見られる。

（2）県立病院の状況について

➤ 病院事業局より県立病院の状況について報告

- ✓ 9/14の県立病院の入院患者は78名で先週より47名減、先々週より74名減。沖縄県の入院患者数のうち、26.2%が県立病院で入院中。県立病院が現在確保しているコロナ病床の稼働率は38.0%である。
- ✓ 入院患者数の内訳は、北部病院30名、中部病院23名、南部医療センター8名、宮古病院7名、八重山病院4名、精和病院6名となっている。非コロナ病床稼働率は八重山病院を除いた県立病院全体で高くなっている。
- ✓ 北部病院では感染が落ち着き、職員の復帰も増加し、感染者を1病棟に集めた。診療制限も解除し、9/12から通常通りの診療を行っている。
- ✓ 中部病院で8月に発生したクラスターはすべて終息したが、9/13に新たなクラスターが発生し、感染者数は計29人。うち患者1名が死亡。一次救急及び一般外来の停止は、9/30まで延長。入院患者は減ってきたが、感染対策に緩みが出ないか心配している。職員に対し、感染対策や防御等について再度注意喚起を行った。
- ✓ 南部医療センターでは現在重症患者はいない。成人コロナ病棟は規模を縮小した。職員の休業者も減ったため、平常時のベッド運用に戻しているが、8月に延期した治療の遅れを取り戻すため、一般患者の入院が多く、ベッドコントロ

ールに苦慮している。

- ✓ 宮古病院で入院している患者の年齢は 80 歳代～100 歳代まで 5 人、他 70 代と 1 歳。職員の休業者は 5 人で徐々に減少している。休床中の 2 棟のうち、1 棟は再開予定。
- ✓ 八重山地域では入院患者及び職員の休業者は大きく減少している。8/12 発生のクラスターは感染者全員が隔離解除となり終息した。
- ✓ 精和病院では職員の休業者は 5 人で落ち着いており、業務は通常通り行えている。
- ✓ 県立病院における診療制限の状況は、中部および南部で一次救急の停止、制限を行っている。一般診療については中部のみ一般外来を停止している。

(3) 宮古・八重山地域の感染状況について

- 宮古地方本部から宮古地域の感染状況等について報告。
 - ✓ 新規陽性者数は一週間で 146 名。5 週間連続減少で、ピーク時の 1/10 程度。療養者数も 141 名で同じく 1/10 くらい。
 - ✓ 年齢別にみると、10 代が最多で、10 歳未満、40 代と続いている。ただし、学校等で増えている様子はない。50 代以上の割合が前回報告では 18%だったが、今回は 30%と増加している。
 - ✓ 陽性者の発生した施設は今週 11 施設となっており、ピーク時の 1/3 程度に減っている。施設内療養者は 12 名とこちらも減少しているが、クラスター疑いの施設の割合は 15.4%と、前回の冬が 12%だったため、その時より高い状況。職員のスクリーニングがないと拡大が止まらない。ワクチン接種も 4 回目がかなか上がっていないことも影響している。指定権者が施設に働きかけないと難しいか。方法としては、施設内利用者のアンケート調査など行って他の施設との接種率の比較ができるとよいかも。

- ✓ 保健所の体制としては、県の出先など解除して保健所内で対応している。
- ✓ 届出の重点化でどのくらい届出の数が減るのかと予測中。途中で体調が悪くなつてからの陽性者登録などが、届出対象外からどのくらい出てくるのか検討しながら体制を検討中。
- 八重山地方本部から八重山地域の感染状況等について報告。
 - ✓ ここ一週間の発生患者数は、173名でかなり減少している。
 - ✓ 年代別は、最多が10代。10歳未満については、20代、30次に次いでといった状況で増加の傾向は見られない。
 - ✓ クラスタは老人関係の施設で3件。うち2件は9/8以降新しい患者がおらず、終息に向かっている。ただ、本日病院で2件発生しており、対応中。
 - ✓ 二次離島については、竹富島、与那国島で計11名となっており、かなり減少している。昨日西表島で確認された陽性患者は石垣島に来られて療養中。移送については9月に入ってからはない。
 - ✓ 保健所の体制について、宮古と同様出先の動員を解除している。感染者数の減少に合わせて対応中。

(4) 空港 PCR 検査プロジェクト・TACO・RICCA 等の状況【資料 8】

- 文化観光スポーツ部より報告
 - ✓ 空港 PCR 検査プロジェクトについて、8/29 の週の受検者は 1,877 名で、前週比 +224 名。内訳は、県内在住者 1,762 名、県外在住者 115 名、陽性者は 41 名で、陽性率は 2.2%となっている。
 - ✓ 那覇空港抗原検査について、受検者は 267 名。うち県内在住者 227 名、県外在住者 40 名、抗原検査陽性は 3 名であった。抗原検査陽性者に迅速 PCR 検査を行ったところ、3 名が陽性であった。なお、今後は抗原検査のみとし、迅速 PCR 検査を終了する。

- ✓ TACO について、9/5 の週の電話対応件数は 41 件で、うち健康相談・問診実施数は 21 件となっている。
- ✓ RICCA について、9/9 時点の登録者数は 155,296 人で前週より+117 人、登録施設等は 19,504 件で前週より+36 件。

(5) BA.5 対策強化地域指定に伴う取組の拡充について【資料 9-1】

➤ 総括情報部より報告

- ✓ 現在の沖縄県対処方針の中で、BA.5 対策強化指定に伴い重点的に行う 4 つの取組状況及び実績について報告する。
- ✓ 高齢者施設での感染拡大阻止として、検査とワクチンについての取組を行っている。定期 PCR 検査不参加施設に対し事前に呼びかけているが、回答のない施設に対しては、電話等により直接定期 PCR 検査等への参加を呼び掛けている。
- ✓ 8/15 時点で定期 PCR 検査に参加している高齢者施設 1,781 施設、障害者施設 1,110 施設のうち、それぞれ 1,356 施設、880 施設にキットを配布した。残りの施設についても、発送準備中。
- ✓ 定期 PCR 検査不参加施設に対して、高齢者福祉介護課及び障害福祉課と連携し、8/12 付け文書発出等により、定期 PCR 検査への参加と共に、緊急的対応としての抗原定性検査キットによる定期検査への参加を呼び掛けた。
- ✓ 高齢者施設 301 施設へ電話等で直接、また、沖縄本島内及び宮古島市、石垣市を中心とした 28 市町村が、管内の施設に対しメール、FAX 及び電話等で定期 PCR 検査等への参加呼びかけを行ったところ、8/26 時点で、PCR 検査による定期検査には高齢者施設 23 施設から、抗原定性検査による定期検査には高齢者施設 153 施設、障害者施設 92 施設から、参加申し込みがあった。抗原定性検査キットについては、8/26 より順次発送を開始。
- ✓ ワクチン接種については、支援を求めている高齢者施設等への支援として、名

護市の2施設については対応済み、1施設は調整中。糸満市、豊見城市、うるま市、浦添市では現在調整中。

(6) 質疑応答

- ✓ BA. 2.75 について、発表されないのか。
→これから配布し説明。知事会見、ブリーフィングでマスコミ等へ対応する。
- ✓ 那覇空港での迅速 PCR 検査終了は、対策本部への報告でよろしいか。
→那覇空港での迅速 PCR 検査については、抗原検査＋医師の診断で陽性確定ができる通知が届いたため、迅速 PCR については本部会議での承認を得て廃止としたい。

3 議題事項

(1) BA. 5 対策強化地域指定の取り扱いについて

➤ 総括情報部より説明

- ✓ 議題資料 1 ではこれまでの警戒レベルの判断指標の推移を掲載している。
- ✓ 7/21 に医療非常事態宣言を発出した際には、人口 10 万人あたりの新規陽性者数は 1749.76 人、病床使用率は 71.5%、重症者用病床使用率は 27.4%、入院 500 人の状況で発出した。同時に対処方針の変更を行っており、不要不急の外出自粛、会食 4 人以下 2 時間以内、1,000 人以上のイベント感染防止計画、イベントのアルコール提供自粛を呼びかけた。
- ✓ 7/24 に緊急フェーズに入っており、一般病床の一部を制限し、コロナ病床を確保した。この時の入院数は 551 人となっていた。
- ✓ その後も感染・入院者数は増え続け、8/4 に BA. 5 対策強化地域指定を受けた。沖縄県は既に医療非常事態宣言を発出しているため、地域指定のみ。対策強化 4 項目については元々対処方針の中にあっただものから、高齢者施設での感染拡

大を防止する、イベントなどで県職員が見回りする、県外からの来訪者への呼びかけ強化、ワクチン接種の推進を集中的に行うといった4項目について設定した。

- ✓ その後人口10万人あたりの新規陽性者数は、9/14時点で398.62と大幅に改善しており、全国平均(494.89)を下回っている。また、病床使用率についても、41.3%と大幅に改善しており、BA.5対策強化地域指定の基準となる50%を下回ったほか、入院患者も298人まで減少している。
- ✓ 医療フェーズについては、感染状況に改善が見られたこと等から、6日に宮古・八重山圏域を医療フェーズ4に引き下げ、13日には本島圏域を医療フェーズ5へ引き下げたところ。
- ✓ 判断指標も順調に改善していることを踏まえ、BA.5対策強化地域指定については解除することを国と協議したいと考えている。
- ✓ 「沖縄県医療非常事態宣言」や、「感染拡大時に適用した措置」については、医療ひっ迫の解消を確実なものとするため、今回は、措置の一部を解除(不要不急の外出自粛の解除)することとし、医療非常事態宣言や措置の残りの項目については、BA.5対策強化地域指定解除やシルバーウィークの連休の影響が生じる、この先2週間の感染状況を確認した後、月末を目途に取り扱いを諮ることとしたい。

(2) 沖縄県対処方針の変更について

➤ 総括情報部より説明

- ✓ 名前を「社会経済活動を継続しながら医療を守るための対策期間」とし、要請期間は令和4年9月17日(土)～9月30日(金)とする。
- ✓ 現況については、今後も感染者の減少が見込まれ、本島圏域の医療フェーズを緊急フェーズからフェーズ5に引き下げており、一部の医療機関で一次救急外来の休止などの制限が見られるものの、医療ひっ迫は解消されつつある。

- ✓ 一方で、高齢者施設等においては、ピーク時には1,800人を超えていた施設内療養者数は徐々に減少しているものの、9/14時点においても315人が施設内で療養しており、そのうち15人が酸素投与を受けながら療養を続けている。
- ✓ 医療体制を守る取組を継続しつつ、感染対策を徹底していくことが、医療ひっ迫の解消を確実なものとし、安定的な社会経済活動を取り戻すことにつながる。
- ✓ 2ページ目、県民の皆様へのお願いで、不要不急の外出について削除。
- ✓ 沖縄県新型コロナ対策パーソナルサポート（RICCA）について追記。追跡機能はなくなるが、感染状況やワクチン接種などの情報発信は継続して行っていく。
- ✓ 3ページ目、来訪者への呼びかけとして、県民と交流が予定される方に対する事前にPCR検査の受検のお願いについて、他の旅行等で来県する方と同様の呼びかけに修正。
- ✓ 沖縄県内の医療機関がひっ迫し、受診困難になっている記載を削除し、持病のある方に限定した呼びかけに内容を修正。
- ✓ 沖縄県新型コロナ対策パーソナルサポート（RICCA）についてこちらでも追記。
- ✓ 4ページ目、飲食店等への呼びかけとして、4人以下2時間以内の呼びかけを継続している。
- ✓ 5ページ目、イベントの開催について、同一イベントにおいて「大声あり」、「大声なし」のエリアを明確に区分して開催する場合の収容率の上限は、それぞれのエリアで、収容定員の半分まで可（大声あり）・収容定員まで可（大声なし）と追記。
- ✓ 追跡対策の徹底について削除。
- ✓ 参加者が1,000人以上のイベントについては、引き続き「感染防止安全計画」を作成し、提出を求める。
- ✓ 感染状況が高止まりしていることの文言を削除。
- ✓ 7ページ目、学校等へのお願いで、学校における活動や学習塾等が終わったら、

寄り道せずに帰宅させる文言について削除。

- ✓ 8 ページ目に、オミクロン株（BA. 1）に対応した2価ワクチンの接種についてイラストを交えて新たに掲載している。
- ✓ 概要として、オミクロン株（BA. 1）に対応した2価ワクチンの有効性については、従来ワクチンを上回る重症化予防効果や、短い期間ではあるものの、感染予防効果や発症予防効果も期待されることなどが国から示されており、9月下旬より初回（1・2回目）接種を完了した12歳以上の全ての者を対象に接種を行う。
- ✓ 接種スケジュールとして、約30万回分を用意しており、9月下旬に4回目接種対象のうち、未接種となっている60歳以上、基礎疾患あり、医療従事者等を対象とし、その後接種券が配られている3回目接種未接種者を対象とし、最後に10月半ば以降から前述以外の者を対象とする。
- ✓ その他、台風等の影響により、ワクチンの配送が遅くなった際には接種時期がずれ込むこと等を記載している。

（2）質疑応答

- ✓ 高齢者施設、障害者施設への呼びかけについて、事業者の皆様にもまとめて記載されているので、社会福祉施設の皆様へといったように別枠を設けて記載したほうがよいと思う。
→高齢者施設はワクチン接種をどのように具体的に進めていくかなど課題が多く、今後冬に向けて対策に力を入れていく必要があるため、今後の変更の際には特出しすることも検討する。
- ✓ 8 ページ目のワクチン接種の資料について、2価ワクチンという記載では専門的すぎて伝わりにくいので、オミクロン株対応ワクチンとした方がよい。また

確認だが、9月下旬以降の4回目未接種者については、今後全員オミクロン株対応ワクチンを接種することとなるのか。あと、9/30以降の対処方針にて検討してもらいたいことだが、インフルエンザの流行が懸念されているため、コロナと併せてインフルエンザのワクチン接種についての周知を検討してもらいたい。

→タイトルについて、オミクロン株対応ワクチンと変更する。確認の件については、2価ワクチンは市町村に配送されており、以降は新たなワクチンの接種になると思われる。インフルエンザについて、接種のシーズンが始まる前にコロナワクチンとの関係も含め県民に説明を行っていきたいと考えているので、次回以降の対処方針で示したい。

- ✓ ワクチン接種の間隔について、これまでは5か月が望ましいとされてきたが、国がこれを短縮する方向で検討しており、情報が入り次第、対策本部会議内で共有する。

- 指摘のあった意見を踏まえ追記、修正し、沖縄県対処方針の変更を決定した。また、BA.5対策強化地域指定については解除する方向で国と協議することとした。

4. その他報告事項

- オミクロン株 BA.2.75 の県内初確認について、総括情報部より報告
 - ✓ 9/13、衛生環境研究所の実施する変異体スクリーニング検査及びゲノム解析により、1名からオミクロン株 BA.2.75（ビーエー・ツー・セブンファイブ）が県内で初めて確認された。
 - ✓ オミクロン株の特徴として、BA.2系統の実効再生産数と比較して、BA.5は1.19倍であるのに対して、BA.2.75は1.36倍と見られるという報告がある。

- ✓ 重症度・病原性は不明であり、ワクチンの効果も明らかにされていない。
- ✓ 他県でも発生報告があるが、散発的なものとなっている。

閉 会